

土木図書館映像ライブラリーの現状と課題

土木学会附属土木図書館 正会員 坂本 真至

土木学会附属土木図書館 正会員 野末 道子

1. はじめに

土木図書館では、図書館活動の一環として情報資料部門土木技術映像委員会と連携し、土木技術映像の保存～公開を行っている。土木学会は戦前から土木文化映画委員会による映画製作、1964年50周年を機に開催され以後2年に1度継続して今年で25回目を迎える映画コンクール、あるいは同時期の土木学会土木技術映像選定制度や視聴覚教育委員会（現土木技術映像委員会）の設置以降、委員会活動の継続と映画会からイブニングシアターに至る連続上映会の開催など、土木技術映像に関わる歴史も学会の歩みと共に長い。ここでは、土木図書館映像ライブラリーの現状について概観するとともに、その課題を探る。

表-1 土木図書館映像ライブラリー登録本数
(複数の媒体を有する場合は原本をカウント)

媒体の種類	総登録数	備 考
Film (16mm)	151	機器の生産中止を受け VHS, DVD に変換済 (簡易テレシネ化)
Video (VHS)	377	機器の生産中止に備え、DVD への変換を実施中
DVD	128	Bru-ray 含む
総計	656	このほか公開不許可の研究用映像その他約 50 本を保管

2. 土木図書館における映像登録の現状

土木図書館における映像登録本数を見ると、表-1 に示す通り総登録本数は 656 本、未公開の研究用映像その他を含めると約 700 本程度が保管されている。媒体別では VHS が約 6 割を占めるが、近年は完全に DVD にシフトしており、VHS の機器自体が製造されなくなる可能性が高いため、保存用に DVD への変換を進めている。

また、これまでの映画コンクール受賞作品の総本数 152 本のうち 134 本が図書館へ登録されている。未登録分 18 本はすべて Film 時代のもので、複製が高価だったことから貸出可であれば受賞条件としていたことによる（現在は作品提出が必須となっている）。

分類別では、表-2 に示す通り橋梁が 16.2%、河川が 13.0% トンネルが 11.6% でこの 3 つの分類で所蔵割合の 40% 強を占める。

製作年代別では、映像そのものからもパッケージなどからも製作年が明瞭に特定できないものも多く、調査未了となっているものが約 4 分の 1 存在する。これについては引き続き調査が必要である。最も多い年代は 1985 年から 2004 年に製作されたもので、全体の半数を占める。一方で、1960 年代から 70 年代にかけての高度成長期には、未曾有の建設ラッシュという背景を受けて多くの土木技術映像が製作されたことが知られており¹⁾、また土木学会視聴覚教育委員会（土木技術映像委員会の前身）のアンケート調査²⁾からもうかが

うことができるが、上記理由（film が高価なため製作側での所蔵・貸出利用が前提）のほか土木図書館設置（1969）前後で受け入れ態勢が不十分などの理由により、所蔵はそれほど多くはない。

表-2 分類別登録本数

分類	所蔵本数	所蔵割合
橋梁	106	16.2%
河川	85	13.0%
トンネル	76	11.6%
土木一般（人物史、近代化遺産などを含む）	52	7.9%
港湾・空港	52	7.9%
防災	50	7.6%
計画・環境	41	6.3%
ダム	36	5.5%
道路	34	5.2%
鉄道	26	4.0%
上下水道	23	3.5%
基礎構造・土工	18	2.7%
測量	17	2.6%
海岸・海洋	14	2.1%
エネルギー施設	13	2.0%
土木材料	7	1.1%
その他	6	0.9%

表-3 製作年代別登録本数

年 代	本数	備 考
不明	154	調査未了
1945 年以前	5	調査未了のものが多く
1945～1964	25	調査未了のものが多く
1965～1984	92	
1985～2004	309	
2005～	71	

キーワード：土木技術映像，映像所蔵統計，映像利用統計，映像作品選定制度，映画コンクール

連絡先：〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-0 Tel 03-3355-5365 Fax 03-3355-6055 Email:sakamoto@jsce.or.jp

表-4 利用目的別貸出実績 (2010～2012)

目 的	貸出本数
社内教育・研修	302
授業	190
上映会	81
研究調査	71
自己啓発	53
その他	51
番組・広報誌等作成参考資料	42
土木技術紹介・広報	37
総 計	827

表-5 専門分野別貸出実績 (2010～2012)

分野	貸出本数
土木一般(人物史、近代化遺産などを含む)	116
防災	111
トンネル	103
橋梁	95
河川	71
ダム	54
道路	51
鉄道	40
基礎構造・土工	36
上下水道	35
港湾・空港	32
エネルギー施設	20
測量	19
計画・環境	18
海岸・海洋	11
土木材料	9
その他	6
総 計	827

表-6 貸出ランクトップ10 (2010～2012)

NO	タイトル	回数
1	民衆のために生きた土木技術者たち	30
2	明日をつくった男 -田辺朝郎と琵琶湖疏水-	23
3	日本の近代土木を築いた人びと	15
4	崩れ-大地のいとなみと私たち	14
5	復旧の軌跡 -阪神・淡路大震災土木施設の災害記録-	13
6	土木新時代 -明日の世代への贈り物(土木学会 90 周年記念)-	12
7	青函トンネル	11
8	パッテンライ!! -南の島の水ものがたり-	11
9	私たちの暮らしと土木シリーズ(2)水とたたかった戦国の武将たち「信玄堤」のおはなし	11
10	土木の世紀 -知られざる社会資本の建設技術-	11

3. 土木図書館における貸出利用の現状

3.1 貸出サービス

土木図書館では会員非会員を問わず、これらの登録映像の閲覧および館外貸出を行っている。貸出ルールは以下の通り。

- ・ 事前予約申請 ・ 一回あたり原則 3 本まで ・ 1 週間以内の利用
- ・ 資料複製厳禁 ・ 郵送利用にも対応 (送料は実費)
- ・ 上映会などの利用の場合には上映報告書要提出

3.2 貸出利用状況

3.2.1 利用目的別貸出実績

2010 年以降の利用目的別貸出実績を表-4 に示す。この表によれば、「社内教育・研修」、「授業」(小学校～大学)で 6 割を占めており、教育への活用が多いことが分かる (これまでも研究討論会や共通セッションなどで活用事例の報告がなされている)。定例映画会「土木学会イブニングシアター」³⁾の web アンケートなどの機会を通じての要望も多く、今後も一層の活用が想定される。

3.2.2 専門分野別貸出実績

専門分野別に見た貸出実績を表-5 に示す。分野別では土木一般(人物史、近代化遺産などを含む)、防災、トンネル、橋梁などの分野が上位にきているが、その他の分野でも利用は確実にあり、土木分野全般のニーズがあることを示している。

3.2.3 作品別貸出実績

表-6 に作品別にみた貸出回数の多い順から 10 位までを示す。この 10 本で全貸出数の 2 割弱を占める人気作品である。

分野の傾向としては土木人物史(土木偉人物語)が 5 本(1, 2, 3, 8, 9)、防災・ビックプロジェクトが 3 本(4, 5, 7)、土木事業全般の紹介が 2 本(6, 10)となっており、また対象別には、俳優など著名人をナレーターに起用し土木を紹介するもの(4, 6)、アニメーションを織り交ぜたもの(2, 8, 9)、劇映画風に撮られたもの(1, 2, 3)といった一般向けの作品が多く、記録映像は 2 本(5, 7)となっている。

これらの作品はイブニングシアターで繰り返し上映され、リクエスト特集の上位にも位置するもので、「来られなかった知人にも見せたい」「上映会を開きたい」と貸出を受けるケースも多くなっている。

4. 課題

日本のドキュメンタリー短編映画(教育映画・文化映画)の歴史は 1900 年代初頭に始まると言われるが、100 年間に製作された建設(建築含む)分野の映像は 1 万本程度⁴⁾との調査もあり、委員会調査²⁾でも 2700 本のリストがあがっている。土木図書館としては土木技術映像委員会と連携し、埋もれている土木技術映像を発掘・収集するとともに、会員・関心ある市民の方々の利活用を推進することが課題である。

参考文献

- 1) 日本投資協会編：『PR 映画年鑑』, 日本投資協会, 1959～70 年(1968～1970 年は『産業文化映画年鑑』に後継)
- 2) 土木学会視聴覚教育委員会編：『土木技術映像作品リスト』, 土木学会, 1996 年版(1970, 1974, 1980, 1986 に続く調査)
- 3) 土木技術映像委員会編：『土木学会イブニングシアター資料集』, 土木学会, 2008 年版及び 2010 年版
- 4) 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵フィルム DB (約 6 万件) による検索結果 (2008 年ヒアリング調査)